

## 教職支援委員会の業務内容と課題・展望について

鈴木 理<sup>1)</sup>

文理学部の教職支援に関する取り組みは、従前の教職支援センター運営委員会が策定した諸事業に拠して、教職志望者（現役学生及び既卒者）における実践的指導力の涵養並びに教員採用試験対策を主題として進められてきた。主だったものとして、①教職インターンシップ、②教職ボランティア、③教職に関する講演会・勉強会等、④教員採用試験説明会等、⑤教員採用試験対策講座、⑥教育実践力研究会、⑦『教師教育と実践知』の編集、等々が挙げられる。これらのプログラムは、学内の関係教職員の努力はもとより、さらに日本大学文理学部校友会を基幹とする現職及びOB教員のネットワークによる力強い協力を得て、教職志望者の所期の目的達成に大きく貢献してきた。

このたびの「教職センター」立ち上げに伴い、旧教職支援センター運営委員会は、教職支援委員会として従前の事業を継承するとともに、その成果と課題を精緻に検討し、機動性と実効性をより一層高めることを企図した新体制を整えてきた。わけても次の3つは、他に類を見ない取り組みとして特筆すべきであろう。

第一に、「教職インターンシップ」である。本学部では、不登校経験や発達障害など様々な課題を抱えた生徒が多く在籍する私立高校エンカレッジコースと連携し、生徒理解のあり方や教員組織としての具体的対応等を実践的に学ぶ場を用意し、大きな成果を蓄積してきた。当インターンシップでは、「事前指導→実践→省察（リフレクション）」の実施を義務づけ、眼前に現れる事象の背景や予後の的確な見取りに裏打ちされた教育的介入について、高いレベルの学びを提供してきた。

第二に、こんにち求められる「反省的实践家としての態度」の向上を期して、多くの学校現場で山積する事例を反省的に検討する「教育実践力研究会」を立ち上げ、着実な実績を重ねてきた。ここでは、大学教員、学校心理士、小・中・高・特支の現職教員、教職志望の現役学生が一堂に会し、具体的なケースを手がかりに多角的な視点からディスカッションを交わしてきた。現職教員も組み入れたこのような研究会は、これもまた他に類を見ない「リカレント教育」の場として有効に機能している。

第三に、上記のごとく実践的指導力を身に付け高めるためのプログラムに加えて、教職志望者を対象とする教員採用試験対策を積極的に手掛けている。教職支援担当職員による教育相談等を通じて一次試験対策を日常的に行うとともに、二次試験に向けては、教員を採用しようとする各自治体（都道府県や政令指定都市等）の特徴に対応するために、全国に展開する本学中高教員組織と連携し、各都道府県から講師を招聘して個人面接、集団討論、模擬授業等の自治体別二次試験対策を実施している。こうした取り組みは、全国屈指の教員採用試験合格者数として結実し、「教職の文理」の名を轟かせている。

最後に、今年度、教職支援事業に高いエフォートを配分する専任教員が着任したことにより、現代のあるいは将来的な教育課題によく対応した教職支援事業の一層の充実が強く見込まれることを付記しておきたい。

1) 教職支援委員会委員長